川崎医科大学　数理・データサイエンス・AI教育プログラム
2024年度自己点検報告書

数理・データサイエンス・AI教育プログラム委員会
神田　栄一郎

自己点検・評価項目	点検結果	点検結果の根拠	改善に向けた取り組み	備考
プログラムの履修・修得状況	○	本学の数理・データサイエンス・AI教育プログラムは、ほぼ必修科目で構成されている。そのため、3年生終了時には全員がプログラムを履修する。2024年度末までに約410名（52%）が受講開始した。毎年およそ15%ずつ増加する予定である。	毎年、全1年生が新しく受講するため、履修率は毎年増加する。このまま継続する。	2024年度の3年生が4年生に進級することを以てプログラムの修了者となる
学修成果	○	いずれの科目でも、テストや実習で、十分な学修成果が認められた。	実習や課題などを取り入れることにより、生徒が受け身ではなく体験できるように工夫している。	
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	○	「科目の内容を理解できた」・「科目の知識は十分に得られた」というアンケート項目では、平均4前後であり、十分に理解できたと考えられる。	どのような項目が理解されやすかったかなど、各科目の責任者が、授業内容を振り返り、反省点を生かすよう工夫している。	
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	○	「科目の内容は価値ある内容であった」・「学習意欲、研究や医療に対する意欲が刺激された」というアンケート項目では、平均4前後であり、十分に理解できたと考えられる。	いずれの科目も必修のため、実際には推奨は行われないが、学生間での評価は高いと考えられる。	
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	○	本プログラムの授業はいずれも必修科目であり、全ての学生が履修できるようになっている。	積極的な学修を促すため、授業の内容や連関をシラバスなどで周知している。	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	△	本プログラムは開設2年目であり、最初の修了生が本学を卒業するのは2027年度末になる。	最初の修了生が卒業後に、アンケートなどの追跡調査を検討する。	
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	○	いずれの科目も、学生が将来医師になることを考慮した内容となっている。また、プレゼンや電子カルテ入力など、卒業後にも有用な技術を、体験できるよう工夫されている。	教材は医学に関係したものが中心となっており、将来にどのように役に立つか明確である。	
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	○	将来の人口やそれに関係した年金など社会的な問題、情報倫理・セキュリティ、そしてAIなどを授業に盛り込んでいる。	最新の話題や身近な話題をふんだんに盛り込むことで、楽しさと意義を体験できるよう工夫している。	
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	○	講義中の双方向議論を取り入れた。また、プログラムや資料として最新のものを準備して、配布している。 データサイエンス教育の学会・シンポジウムなどに参加している。 大学内で周知させるため、FD・SD会が開催された。	最新の情報に基づいたスライドやテキストが活用されている。 データサイエンス教育の情報を収集している。 他大学での授業の情報収集や大学内での周知を行う。	